

琉球大学学術リポジトリ

故屋代弘孝氏と沖縄の昆虫

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東平地, 清二 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015082

故屋代弘孝氏と沖縄の昆虫

東 平 地 清 二

(琉球植物防疫所)

故屋代弘孝氏は1961年12月30日奇禍に遇い享年67才を最後に不帰の客となられた。

沖縄の昆虫を研究するもの一人として誠に痛惜に絶えない。

もともと筆者は屋代氏に対して何の面識も持ち合せておらずただ氏の沖縄の昆虫研究に尽された功績について文献であらましを断片的に知っているに過ぎない。氏の遺作は私達の永久の師表であり、その中にみられる氏の豊富な御体験と円満な人格は私達の尊敬するものの一つだと念じている。

氏は大正11年(1922)県庁の技師として来沖され、大正12年には沖縄県立糖業試験場の技師として病害虫関係の研究に活躍され、昭和6年には沖縄県立農事試験場の昆虫部主任として敏腕を遺憾なく発揮され、1944年に沖縄戦のため内地に引揚げられるまでの22年間は沖縄の昆虫害虫について研究された。

戦後は昭和23年(1948)に兵庫県立農事試験場に赴任され、在任中にGHQから琉球の病害虫調査のため沖縄へ派遣されたこともある。ここで氏の発表された論文を拾い氏の御活躍の跡を偲びたい。

(1) 沖縄県昆虫目録(No. 1) 沖縄県立糖業試験場発行(1927)

沖縄の昆虫関係目録として始めてのものであり417種の昆虫を記録した。

(2) モンシロチヨウ那覇市に於て獲る、*Zephyrus* 2巻1号(1930)。

(3) 宮古島の蝶類、*Zephyrus* 2巻4号(1930)。

(4) 沖縄地方の昆虫方言、虫2号(1930)。

(5) 南大東の蝶類、*Zephyrus* 3巻2号(1931)。

(6) 久米島の蝶類、*Zephyrus* 3巻3~4号(1931)。

(7) 南大東の蝶類(追加)*Zephyrus* 3巻3~4号(1931)。

(8) 沖縄島の蝶類、*Zephyrus* 4巻2~3号(1932)

(9) カバマダラについて、*Zephyrus* 4巻2~3号(1932)

(10) 沖縄県石垣島における瓜実蠅天敵放飼事業概要 昆虫 8巻4~6号(1934)

本事業に対する氏の功績は特に大きいものがある。

(11) 南大東の蝶類(Ⅲ)*Zephyrus* 8巻3~4号(1935)。

(12) 沖縄県石垣島における瓜実蠅天敵放飼事業概要、昆虫世界、39巻、453号(1935)。

(13) 沖縄地方におけるオオコマダラの生活史 *Zephyrus*、9巻2号(1936)。

(14) 甘蔗害虫ナカジロシタバに就いて(第一報)、応用昆虫、1巻5号(1939)。

(15) 暴風による甘蔗の折損とめい虫被害との関係、応用昆虫 2巻1号(1939)。

(16) 沖縄地方における浮塵子の発生と暴風との関係、応用昆虫 2巻3号(1939)。

(17) 南大東島における昆虫、生物地理 3巻2号(1939) アリモドキゾウムシ、イネヨトウなどについても記してある。

(18) 沖縄地方に於ける二三害虫及益虫の伝播経路について、生物地理、3巻2号、(1939)。

カンシヤコバネナガカメムシ、ベドリヤテントウなどについて詳しい説明がある。

(19) ヨナグニサン *Lamia atlas* Linne の生活史、昆虫 13巻3号、(1939)

(20) イヘカミキリ、*Strumatum Longicorne* Neuman 沖縄山学会会報 1号(1940)。

(21) ウリミバエの食飼誘殺、応用昆虫 2巻4号、(1940)。

(22) 甘蔗害虫ナカジロシタバに就いて(第2報)、応用昆虫 2巻6号、(1940)。

(23) 沖縄地方における重要害虫概説、農業及園芸、15巻12号、(1940)。

沖縄の害虫についての初めての総合的案内書に類するものである。

(24) 甘蔗害虫ナカジロシタバに就いて(3報)、ナカジロシタバ幼虫の甘蔗葉食害が諸の収量に及ぼす影響、応用昆虫 3巻3号、(1941)。

(25) 沖縄産動物目録、沖縄生物教育研究会発行(1959) 昆虫の部の主編者として1644種の昆虫を記録してある。

氏の直接発表されたものは以上の通りであるが糖業試験場および農業試験場の業務報告中に甘蔗害虫に関する調査、一般農作物害虫防除に関する調査試験研究、天敵の調査及利用に関する調査、アリモドキゾウムシ、ウリミバエ、ミカンコバエなど氏の担当された調査報告が多数ある。沖縄における害虫防除の一大恩人であり、昆虫学の開拓者でもある。我々は屋代氏の功績を忘れてはならないと思う。